# 行政裁判

米人スミス英人デビソン両氏原稿

1653

114
A 4516

宮内省圖書寮

# 請求裁判所組立及審判

村田保譯

一 政府ニ對スル某件ノ請求ヲ審判スル為メ並ニ政府及ヒ人民會社ヨリ礦山ノ坑業及ヒ鐵道ノ建築ニ付キ起ル某件ノ爭論ヲ裁定スル為メ一裁判所ヲ設立スル布告之事

第一章 茲ニ請求裁判所ト稱スル一裁判所ヲ設立シ以テ以下ノ條件ヲ審理裁判スルヿヲ管掌ス

一 書面或ハ書面外ニ拘ハラス政府ト定約シ

大正十一年四月
大隈侯爵邸寄贈

タルヿニ付キ政府ニ對スル都テノ請求ノ事

二 書面或ハ書面外ニ拘ハラス藩ト定約シタルヿニ付キ藩ニ對スル請求ハ金數ノ多少ヲ論セス及ヒ府縣ト定約シタルヿニ付キ府縣ニ對スル請求ハ千圓以上ノ金高ニ限ル事

三 何年何月ヨリ何年何月ノ間内國戰爭中官軍資用ノ為メ人民ヨリ收徵或ハ供給シタル軍需代價ノ為メ人民ヨリ請求スル事

四 被告ヨリ此裁判所ニ於テ請求スル人ニ對シ差引勘定及對ノ請求約定無約定ヨリ起ル損害ノ請求或ハ其他ノ要求アル事

此ノ如キ訴訟ヲ吟味スルニハ此請求裁判所ハ原告被告ニ對シ或ハ為メニ其請求或ハ要求ヲ両ナカラ審判シ而シテ如シ全ク原告ヨリ被告ニ負債スルヿヲ見出ス場合ニハ被告ノ為メニ裁判言渡ヲ為スヘシ

五 會計官吏或ハ其財産ノ代理ヨリ其官吏ノ監守スル簿書記録公金或ハ書類ノ既ニ遺

失掠奪或ハ毀棄シ而シテ之カ為メ其官吏ノ責任アル者如シ其官吏ノ死去シ或ハ分散スル時ハ其責任ヨリ放免ヲ受ル為メ請求スル事

六 行政官廳ニ對シ法律上緊要ノ難問アル請求ヲ為ス時或ハ其處分訴訟ニ關シタル時或ハ行政官廳ヨリ訴訟事件ヲ後來ノ定例ト為スヘキ先規ヲ設為シ及ヒ請求裁判所ニ於テ請求ヲ為シタル所ノ官廳ノ長官ヨリ其請求ヲ行移スル時ノ事

七 會計ニ係ル事件或ハ其類ノ請求此六ケ條ニ照依スル者ハ大藏省内ニ起リ或ハ其他ノ行政官廳ニ起ルニ拘ハラス大藏卿ヨリ請求裁判所ノ處分ノ為メ交付スルヿヲ指令スル時ノ事

八 地所家作ノ本主借主或ハ百姓ヨリ礦山ノ借主或ハ本主ニ對シ其地所家作或ハ作物或ハ其他ノ所有物ニ礦山ノ工作ヨリ起ル損害ノ為メ其償還ヲ求ムル請求ヲナス事

九 鐵道寮或ハ鐵道會社ニ對シ請求者ノ所有

物或ハ權或ハ利益ヲ鐵道寮或ハ會社ヨリ鐵道建築ノ際ニ當テ建築不正ノ取扱或ハ破壞セラルヽ為メ受ル損失ノ償還或ハ鐵道ノ拙偽ナル建築及ヒ不充分ノ守備ナル為メ損害ヲ受ル償還ノ請求ヲ為ス事

第二章　各行政官廳ノ長官ハ該官廳ニ對シ為シタル一切ノ請求ヲ此裁判所ニ差出ス權ヲ有シ而シテ大藏卿ハ各行政官廳ニ對スル一切ノ請求ヲ此裁判所ニ差出ス權ヲ有スヘシ而シテ之ヲ差出スニハ其交付スル縁由ヲ記シタル書面並ニ其訴訟ニ係ル都テノ証據ヲ此裁判所ニ送ルヘシ而シテ各行政官廳長官或ハ大藏卿ヨリ此裁判所ニ移付シタル其訴訟ニ於ル手續ハ此裁判所ニ於テ吟味中ナル他ノ訴訟ト同様ナリトシ又ヒ其訴訟ハ都ニ

ノ事ニ付同様ノ規則例規ニ従フヘシ而シテ
此裁判所ノ裁決ハ請求者ノ自ラ此裁判所ニ
請求シタルト同様ノ仕方ニテ相方ノ間ニ取
終ノ裁判トスヘシ

第三章　此裁判所ハ上席人壹人裁判官五人ヲ
以テ組立ツ是ハ天皇陛下ヨリ任セラル勅任
官トス

上席人缺席スルトキハ上席ノ裁判官代理ス以
上ノ裁判官ハ五ケ年間其官ヲ有ツヘシ

第四章　少クトモ裁判官三人各訴訟ニ出席ス
ヘシ而シテ如シ裁判官ノ意見當分ニ分ルヽ場
合ニハ裁判言渡ハ上席人ノ意見ニ從フヘシ

第五章　上席人ハ事宜ニ依リ要用ナルトキハ裁
判所ヲ二ツニ分ツコトアルヘシ各々裁判官三
人ヲ以テ組立テ而シテ其分レタル裁判所ハ
請求ヲ審判スル為メ各々同時ニ各別ニ開ク
ヘシ上席人自ラ適當ト考フル時ハ其両分ス
ル裁判所ノ訴訟ニ相關渉シ而シテ其各別裁
判所ハ各英前ニ於テ吟味スル訴訟ニ付キ請
求裁判所ノ充分ノ催力ナシ及ヒ取行フコ

アルヘシ

第六章　以上ノ裁判官ハ甚シキ惡行或ハ難病アル外ハ其職ヨリ動スヿヲ得ス

第七章　以上ノ裁判官ヲ動ス為メ都テノ手續ハ別ノ裁判所ニ於テ取行フヘシ此裁判所ハ上席人ヨリ撰任シタル請求裁判所ノ裁判官貳人（上席人缺席或ハ事故アル場合ニハ次ノ上席ノ裁判官ヨリ撰任スヘシ）及ヒ上等裁判所ノ上等裁判官ヨリ撰任シタル上等裁判所ノ裁判官三人（上等裁判官ノ缺席或ハ事故アル場合ニハ其次ノ上席ノ裁判官ヨリ撰任スヘシ）ヲ以テ組立ヘシ

以上ノ手續ハ只タ大檢事ノ司法卿ノ許諾シ得ルニ由テ取行フヘシ而シ其手續ハ大檢事及ヒ司法卿ノ両人之ニ許諾セサレハ取行フヿヲ得ス

第八章　何レノ裁判官ヲ動スニモ此裁判所ノ裁判官五人ノ内少クトモ三人ノ者彼ハ動ス可シト決スルヿヲ必要トス

第九章　此請求裁判所ハ、裁判所ニ於テ為ス

都テノ事務ヲ整頓スル、其手續及ヒ執行ノ規則ヲ創定スヘシ

第十章　法律ニ明ナル勅任官一人及ヒ同々副官一人ヲ任スヘシ其職掌ハ藩府縣官廳ノ為メ此裁判所ニ於テ代理ヲ為シ而シテ政府ノ為メニ都テノ訴訟ヲ準備辯論幹旋ス此官ハ五ケ年間ノ其職ヲ有スヘシ

第十一章　今般ノ布告ニ從ヒ府縣廳ニ對シ請求裁判所ニ請求ヲ為ス時ニ於テ前條ノ官員ヨリ要求スル時ハ府縣廳ハ必ス其請求スル

緣由及ヒ原告ニ對スル反對ノ請求ヲ詳細ニ記載シテ其官員ニ送付スヘシ府縣廳ハ必ス此裁判所ニ差出シタル請求ニ付キ其官員ノ証據及ヒ報告ヲ探知スル為メ都テ容易ナラシムヘシ但シ如シ其官員ヨリ報告或ハ証據ヲ要スル時府知事縣令ノ意見ニ如シ其報告ヲ為シ或ハ証據ヲ出スヿハ公益ニ害アリシト思慮スレハ知事縣令ハ以上ノ官員ニ其報告ヲ為シ或ハ証據ヲ出スヿヲ拒ムヿヲ得ヘシ然レ𪜈裁判所ニリヒヲ命令スル時ハ必ス

其報告ヲ為シ及ヒ証據ヲ出スヘシ裁判所ハ自ラ之ヲ此場合ニ於テ用立ヘキヤ否ヲ決定ス

如シ請求ヲ或ル官廳ヨリ已ニ裁決シタル場合ニハ既ニ記載シタル如ク以上ノ官員ニ送付スヘキ書面或ハ答書ハ其據テ裁決スル原因縁由ヲ簡畧ニ記載スヘシ

都テ法律或ハ其箇條ニ照依シテ裁決シタル場合ニハ之ヲ明細ニ抄録スヘシ

而シテ如シ行政官廳或ハ府藩縣ノ規則ニ照依シテ決裁シタル場合ノ時或ハ如シ其書面ヲ送付スル官廳ノ意見ニ於テ其規則ハ其訴訟ノ請求ヲ抑壓スルヿアランヲ思慮スル時ハ以上ノ官員ニ送付スヘキ書面ニ於テ其規則ヲ明白ニ調査シテ抄録スヘシ

第十二章　各行政官府縣廳ハ請求裁判所ノ審判ニ屬スル其關係シタル事件ニ於テ以上ノ官員ノ取扱ヲ求ル權ヲ有ス而シテ其官員ハ官廳ヨリ受ケタル委托ニ從テ取行フヘシ但シ此布告ニ別ニ定メタル時ハ此限ニ在ラス

然レ𪜈府縣廳ニ於テ一年以上定俸ヲ以テ其官廳ノ教師トシテ約定シタル者ヲ府縣廳ハ以上ノ官員ト共ニ其事件ニ使用スルヿハ此布告ニ於テ妨ケナシトス但シ毎ニ各官廳ハ必ス以上ノ官員ヨリ指教スルニ從ツテ請求ヲ辨解シ反對ノ請求ヲ為シ損害ヲ請求シ及ヒ差引勘定ヲ論辨スルヿヲ要ス

以上ノ請求或ハ反對請求或ハ差引勘定ハ以上ノ官員ノ許諾ナクシテ官廳ハ之ヲ和議スルヿヲ得ス

然トモ其官員ノ府縣廳ニ指教シテ其請求ヲ辨解ス可ラス或ハ其反對ノ請求或ハ請求ヲ為ス可ラス或ハ其差引勘定ヲ論辨ス可ラスト指教スル場合ニ於テハ府縣廳ハ必シモ其見込ニ從フヿヲ要セス却テ其場合ニハ自由ニ其教師ヲ使用シテ請求或ハ反對請求ヲ為シ差引勘定ヲ辨論シ及ヒ其他ノ辨解ヲ為サシムルヿヲ得

## 第十三章　請求裁判所ハ二等書記官一人副書記官一人ヲ命シ是ハ五ヶ年ノ間其官ヲ有ツ

ヘシ而シテ此書記官ハ両別スル裁判所ニ附
屬スル時間ハ其指揮ヲ受クヘシ

第十四章　以上ノ書記官ハ其両別裁判所ニ附
屬スル時間ニ如シ其裁判所ノ裁判官ノ衆論
ニ彼レハ職務上不正ヲ犯シタリト決シ或ハ
裁判官ノ彼レニ難病アルヿヲ明カニスレハ
何時ニテモ放免スルヿヲ得ヘシ

第十五章　以上ノ書記官ノ職掌ハ請求裁判所
開クル毎ニ出席シ而シテ其記録手續裁判言
渡及ヒ命令等ヲ主守シ及ヒ其役所ニ於テ此
裁判所ニテ吟味スル訴訟ニ關渉シタル都テ
ノ辨論報知証據及ヒ其他ノ書類ヲ收受及ヒ
主守シ而シテ裁判所ノ指揮ニ從テ裁判所
呼出狀及ヒ命令ヲ出シ及ヒ都テノ金銀ノ裁
判所ニ入ルモノ或ハ裁判所ニ貯藏スル者ヲ
監守シ及ヒ裁判所ノ命令ニ從テ之ヲ仕拂フ
ヘシ

第十六章　請求裁判所ハ「マーシヤル」ト稱スル
官員ヲ命シ其職務ハ裁判所ノ命令ヲ施行シ
及ヒ呼出狀報告及ヒ其他ノ公文ヲ分付シ及

ヒ裁判所ノ指揮ニ從ツテ物品或ハ其他ノ所有物ヲ取押及ヒ主守スヘシ此官員ハ請求裁判所ヨリ其職務上ノ不正或ハ難病アル為メ放免スルヿヲ得ヘシ

第十七章　以上ノ書記官及ヒ「マーシヤル」ハ其職務ヲ取行フ前ニ其職務ヲ至當及ヒ正直ニ取扱フ為メ請求裁判所ノ裁判官四人ノ許諾スル金高ノ証書並ニ抵當ヲ出サシム

第十八章　此書記官及ヒ「マーシヤル」ノ監スル會計簿ハ大藏省會計檢査役ヨリ三ケ月毎ニ調査ヲ受クヘシ

第十九章　請求裁判所ハ初メ拜命シタル上席人ノ定ムル記號ヲ付スル官印ヲ設ケ而シテ呼出狀、命令、裁判言渡及ヒ裁判所ノ公告アル毎ニハ必ス捺印スヘシ

第二十章　請求裁判所ニ於テハ別段其前ニ於テ訴訟取扱スヘキヿヲ許可スル者ニアラサレハ何人ニテモ許可ナクシテハ此裁判所ニ於テ訴訟取扱ヲ為スヿヲ得ス

然レトモ請求者ハ自ラ其己ノ訴訟ヲ取行フヿ

ヲ得ヘシ

第二十一章　此請求裁判所ハ年々裁判所ノ事務ヲ取捌ク為メ必要ナル時ニ開クヘシ

此裁判所ノ裁判官ハ吟味ノ時誓約及ヒ嚴約ヲ為サシメ裁判所ヲ輕侮スル者ヲ罰シ原告被告及ヒ証據人ヲ出頭セシメ及ヒ書類書冊及ヒ其他其訴訟ニ必要ナル証據ヲ出サシムルヿヲ得ヘシ

第二十二章　請求者ハ都テノ場合ニ於テ其歎願書ニ明細ニ其請求スルヿヲ記載シ及ヒ如シ府縣廳ヨリ既ニ其訴訟ヲ為シタル時ハ其訴訟ヲ明細ニ記載スヘシ

歎願書ハ又タ必ス自身或ハ他人ノ為メニ之ニ拘ハラス請求者ノ請求ヲ為ス性質如何ヲ詳ニシ及ヒ如シ他人ノ為メナレハ何人ノ為メ及ヒ如何ナル權ヲ以テ請求スルヿヲ詳ニスヘシ及ヒ如シ其請求ヲ為ス元來ノ本主ニ非ス餘人ノ之ニ利益ヲ得タル時ハ其歎願書ハ必ス其人ノ何日如此利益ヲ得タルヤ及ヒ如何ナル譯ニテ如此利益ヲ得タルヤトヲ

記載スヘシ

第二十三章　裁判所ノ意見ニ於テハ數人同ク請求スル者ヲシテ其訴訟ニ取掛ル前ニ其請求スル一ヲ相聞紀サシムル一アリ

第二十四章　若シ反對ノ請求或ハ差引勘定ヲ請求裁判所ニ差出シタル歎願書ニ被告ヨリ其返答ニ於テ辯解スル時及ヒ如シ其反對請求或ハ差引勘定ノ被告ノ為メニ勘定スヘキヲ除キ猶其請求ヨリ餘分アリ此裁判所如シ至當ト考ル時ハ被告ニ命シ裁判所ヘ抵當金ヲ出サシムルカ或ハ裁判所ノ充分トスル証書ヲ出サシメ以テ裁判所ノ其抵當ヲ拂フヘシト決スル時ニ於テ之ヲ拂ハシムル權ヲ有セリ

第二十五章　此裁判所ハ請求ヲ吟味スル時ニ要スル証據ヲ探得ル為メ目代ヲ命シ其給料ノ為メ受ヘキ謝銀ヲ定メ及ヒ原告被告ノ為メ証據ヲ探得ル為メ命令ヲ出シ並ニ証據人ニ目代ノ前ニ吟味ヲ受ル為メ出席スヘキ命令ヲ出ス權ヲ有ス若シ請求者ノ為メニ証據

ヲ得ル時ハ其吟味ヲ為シタル目代ノ謝銀及
ヒ命令ヲ出ス入費ハ第一ニ請求者ヨリ之ヲ
拂フヘシ而シテ如シ被告ノ為メニ証據ヲ得
ル時ハ其謝銀ハ第一ニ被告ヨリ拂フヘシ
各目代ハ其証據ヲ聞取ル時其前ニ呼出シタ
ル証據人ニ誓詞或ハ嚴約(アハリ)ヲ為サシムル權ア
リトス

第二十六章　如シ裁判所ヨリ請求者ニ目代ノ
前或ハ裁判所ニ出頭シテ証據ヲ差出シ或ハ
書類書冊或ハ其他其訴訟ニ肝要ナル証據ヲ
差出スヘク命セラレ而シテ如シ請求者ノ敢
テ出席シ或ハ其知リタル証據ヲ出スヿヲ肯
セサル時裁判所ハ其意見ニ於テ請求者ノ法
ニ言フ所ノ裁判所ノ命令ニ全ク從服スル迄
ハ其訴訟ヲ吟味ニ取掛ラサル趣ヲ言渡スヿ
ヲ得ヘシ

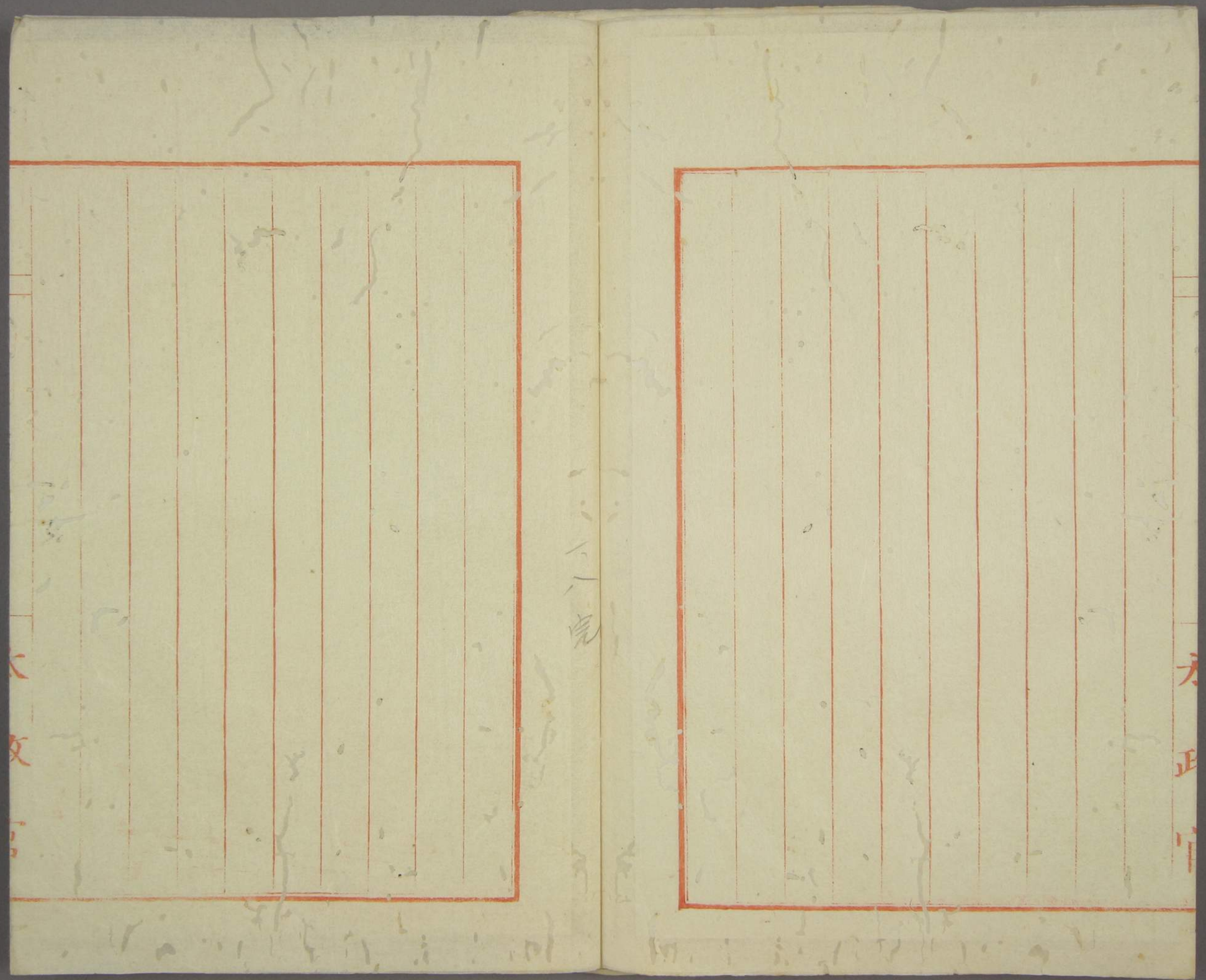
第二十七章　原告被告各一方ノ証據人ヲ直チ
ニ吟味スル權ヲ有スヘシ

第二十八章　如シ何人ニテモ裁判所ノ前或ハ
裁判所ヨリ命シタル官吏ノ前或ハ此布告ニ

依テ裁判所ニ吟味中ノ訴訟ニ於テ証據ヲ取ルヿヲ許容セラルヽ官吏ノ前ニテ吻經ヲ為ス時故ラニ偽誓ヲ為シ或ハ其後此裁判所ニ服罪スル場合ニハ此犯人ハ詐証ノ罪ニ坐シ而シテ法律ニ依テ科罰スヘシ

第二十九章　請求裁判所ヨリ裁斷スヘキ各請求ハ其請求ヲ巨細ニ記載シタル歎願書ヲ裁判所ニ差出シ或ハ布告ノ件欵ニ從テ此裁判所ニ送移スルヿ其請求ノ起リタル後六ケ年内ニ非レハ終ニ其請求ヲ禁塞ス但シ此布告ノ頒行スル六ケ年前ニ起リタル請求ハ如シ以上ニ言フ如ク歎願書ヲ裁判所ニ差出シ或ハ送移スルヿ布告頒行後三年内ニアレハ其請求ヲ禁塞セス

又嫁婦ノ婚姻中ニ起リタル請求幼年ノ時起リタル二十一歳以下ノ人ノ請求及ヒ愚人瘋癲人及ヒ請求ノ起リタル時外國ニ居ル人等請求スルヿヲ得ル者如シ上ニ言フ如ク歎願書ヲ裁判所ニ差出シ或ハ送移スルヿ其自由或ハ快癒シテ請求スルヿヲ能スル後三ケ年

内ニアレハ禁塞スルヿヲ為サス
然レ𪜈今掲載シタル事故ノ外ハ其請求ヲ禁塞スルヿヲ免レス又ハ其事故ヲ屢々行フヿヲ得ス

第三十章　何人ニテモ此布告ニ従ツテ政府或ハ府藩縣ニ對スル請求或ハ請求ノ部分ノ証明書寫作立或ハ准許ニ於テ政府或ハ府藩縣ニ對シ欺瞞ヲ犯シ或ハ犯サントト企ル者ハ其犯罪ノ為メ其請求スル全部或ハ部分ヲ政府或ハ府縣廳ニ没收ス此場合ニハ請求裁判所ノ職掌ニ於テ格別ニ其欺瞞ヲ已ニ犯シタルトト或ハ犯サントト企ツルトヲ撿擧スヘシ是ニ於テ其請求ヲ以上言フ如ク没收シ且ツ請求者ニ後日其請求ヲ再ヒ訴出スルヿヲ禁塞スル裁判言渡ヲ為スヘシ